



オーストラリア・モナシュ大学の語学研修[関連記事7ページ]

## 歯学部長就任にあたって

歯学部長 齋藤 隆史



今年4月1日付けで歯学部長を拝命しました。歯学部が抱えるさまざまな課題に直面し、その責務と使命の重さに身の引き締まる思いです。近年歯学部を取り巻く環境は大きく変化し、歯学部として適切な対応が日々求められています。歯科医師需給問題に端を発した歯科医師国家試験の難化に対しては、教員が一丸となって取り組み、昨年度の新卒者合格率は85.4%(私立歯科大学17校中3位)という結果が得られました。今後の最重要課題としては、留年率の減少と入学定員の充足が挙げられます。現在、学生の学力多様化に対応すべく学年主任・クラス担任制の強化を図り、きめ細かな学習・生活指導を行うことによって学生のモチベーション維持と各学年での進級へのプロセス管理に努めています。今年度は三者面談を実施し、さらに前期中間試験を導入して、早期に個々の学生の能力に合わせた適切な学習指導を行うシステムを整備しました。

一方で、これからの歯学教育が目指すのは高齢社会のニーズに対応できる歯科医師の養成です。歯学部で

は本学の教育理念「保健・医療・福祉の連携・統合」を具現化するため、医療系総合大学の特長を生かした多職種連携教育を推進しています。新カリキュラムでは、高齢者、有病者、障がい者等への対応に関する他4学部との連携講義・実習を1年次から4年次まで順次組んでいます(看護福祉概論、医療薬学概論、人体運動科学、医療行動科学等)。さらに5年次以降の臨床実習では、北海道医療大学病院・歯科内科クリニックでの診療参加型実習に加え、地域歯科医療および他職種との協働に関して学外医療機関および介護老人福祉施設での実習、要介護者に対する訪問歯科診療実習を実施して、地域連携・多職種連携という視点を持った歯科医師の養成に努めています。今後は5学部がさらに有機的に連携して魅力ある臨床実習教育を組織的に展開することにより、時代の要請に応え得る医療人の育成に邁進し、社会から益々大きな期待、厚い信頼そして力強い支持が得られる存在となるよう努力して行きたいと考えています。

## CONTENTS

歯学部長就任にあたって	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
当別キャンパス 中央講義棟増築	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
2013年度入試結果報告 新入生オリエンテーション	6
オーストラリア・モナシュ大学語学研修レポート - Bowly-Ainsworth Awardを受賞 ユング・シュテリング病院との医療/技術交流	7
私の学生時代	8
OG訪問[看護福祉学部]	9
学校法人東日本学園 ○2012年度決算 ○2013年度予算	10
新入生アンケート結果報告	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

薬学研究科長

平藤 雅彦

看護福祉学部長

平 典子

個体差健康科学研究所長

黒澤 隆夫

看護福祉学部

三國 久美

教務部副部長

山田 律子

リハビリテーション科学部

学生部長

高橋 尚明

教務部長

小島 悟

学生部副部長

山口 明彦

教務部副部長

鎌田 樹寛

歯学部

齋藤 正人

歯学部附属歯科衛生士専門学校

教務主任

岡橋 智恵

歯学部長

斎藤 隆史

リハビリテーション科学部長

泉 唯史

新任教員



薬学部(人間基礎科学:法学) 大学教育開発センター講師



薬学部(人間基礎科学:化学) 大学教育開発センター講師



看護福祉学部准教授 (看護学科 実践基礎看護学)



看護福祉学部准教授 (看護学科 地域保健看護学(精神看護学))



リハビリテーション科学部教授 (理学療法学科)



リハビリテーション科学部教授 (理学療法学科)



リハビリテーション科学部教授 (理学療法学科)



リハビリテーション科学部教授 (作業療法学科)



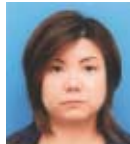
リハビリテーション科学部講師 (作業療法学科)



個体差医療科学センター講師 (医学部門)



認定看護師研修センター専任教員 (皮膚・排泄ケア分野)



認定看護師研修センター専任教員 (がん化学療法看護分野)



認定看護師研修センター専任教員 (感染管理分野)



認定看護師研修センター専任教員 (感染管理分野)



歯学部附属歯科衛生士専門学校 専任教員

薬学部 助教(薬理学)

平出 幸子

歯学部 助教(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))

佐々木みづほ

看護福祉学部 助教(看護学科 実践基礎看護学)

新井 紗樹子

リハビリテーション科学部 助教(理学療法学科)

大塚 裕之

昇任教員



看護福祉学部(人間基礎科学:文化・人類学) 大学教育開発センター教授



看護福祉学部(人間基礎科学:英語) 大学教育開発センター准教授



心理科学部(言語聴覚療法学科:英語) 大学教育開発センター講師



リハビリテーション科学部(理学療法学科:体育学) 大学教育開発センター教授



歯学部講師 (生体機能-病態学系(臨床口腔病理学))



歯学部講師 (口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))



リハビリテーション科学部教授 (理学療法学科)



リハビリテーション科学部教授 (理学療法学科)



リハビリテーション科学部講師 (理学療法学科)



リハビリテーション科学部講師 (作業療法学科)



リハビリテーション科学部講師 (作業療法学科)



個体差健康科学研究所教授



個体差健康科学センター教授 (医学部門)

配置替

リハビリテーション科学部 講師(理学療法学科)

宮崎 充功

助教(作業療法学科)

鎌田 樹寛

准教授(作業療法学科)

浅野 雅子

助教(作業療法学科)

児玉 志志

# 2013年3月、完成。 地上10階建ての新たなランドマーク。

リハビリテーション科学部の設置に伴い、既設の中央講義棟を地上10階建てに増築し、講義室・実習室を整備しました。

6階には、主に理学療法学科で使用する動作解析実習室、物理療法実習室、運動機能評価治療室、運動療法実習室を設置。7階には、主に作業療法学科で使用するバリアフリーラボ、日常生活活動実習室、基礎作業実習室、発達評価実習室、義肢装具実習室等を設置し、各階ともに学生数に

応じたさまざまな機器・備品を備えています。

また、4階には、241名収容可能な大講義室を2室、LL教室を2室設置。5階には、216名収容可能な講義室を2室、129名収容可能な講義室を1室、90名収容可能な講義室を1室、52名収容可能な講義室を1室設置します。さらに最上階の10階には展望ラウンジを整備。石狩平野を一望することができ、試験勉強からクラブ・サークルの打ち合わせまで学生が自由に活用しています。



## 10階には広大なビューラウンジ。 札幌市内まで見渡せます。

全学部学科の学生がいつでも自由に利用できるラウンジが最上階に。大人数で座れるソファや、窓に向かって配置されたデスクなどが揃っており、テストの勉強からクラブ・サークルの打ち合わせまでさまざまな用途に対応しています。



バリアフリーラボ

6階と7階には、リハビリテーション科学部の理学療法学科と作業療法学科が使用する実習室を設置。各実習室には、最新の設備が導入されています。



日常生活活動実習室



10階 演習室



発達評価実習室



運動療法実習室



講義室

2階から5階には、200名以上収容可能な大講義室が7室。ほかにも、少人数制のゼミなどに対応した講義室や、LL教室、情報処理室なども設置しています。

本学 全国平均

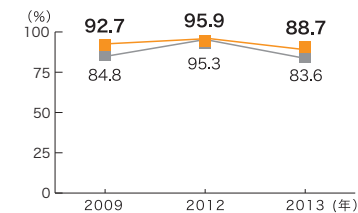
#### 北海道医療大学

##### ( 第98回 薬剤師国家試験 )

6年制移行後の国家試験でも  
 全国平均を上回る合格率を達成。

2013年3月、薬剤師教育が6年制になって2度目の国家試験(第98回薬剤師国家試験)が行われました。本学からは新卒者115名が受験、102名が合格し、合格率は88.7%と全国平均を上回る好結果となりました。なお、本学薬学部卒業生総数4,946名の97.3%にあたる4,811名が薬剤師免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

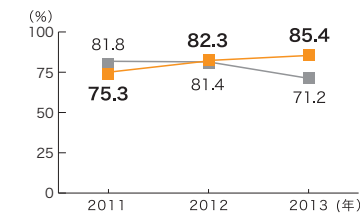


##### ( 第106回 歯科医師国家試験 )

全国平均を上回る合格率!  
 免許取得率も98.3%と高水準

2013年に行われた第106回歯科医師国家試験では、本学新卒者82名のうち70名が合格し、合格率は85.4%と、全国平均を大きく上回る結果でした。なお、全卒業者2,923名のうち、98.3%(2,874名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

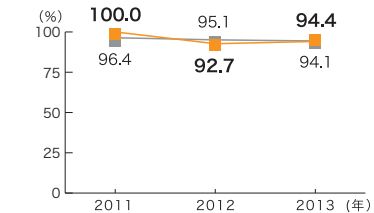


##### ( 第102回 看護師国家試験 )

全卒業者1,735名のうち、  
 98.5%が免許を取得

2013年に行われた第102回看護師国家試験では、本学新卒者108名のうち102名が合格し、合格率は94.4%でした。なお、全卒業者1,735名のうち、98.2%(1,703名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

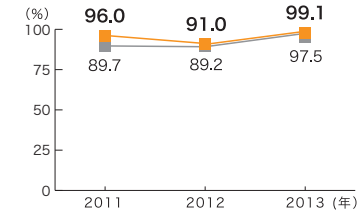


##### ( 第99回 保健師国家試験 )

新卒合格率は99.1%。  
 多くが看護師とのダブルライセンスを獲得

2013年の第99回保健師国家試験では99.1%(受験者113名、合格者112名)でした。また、合格者のうち101名が看護師と保健師の国家資格をダブル取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

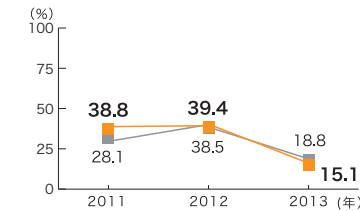


##### ( 第25回 社会福祉士国家試験 )

社会福祉士国家試験の  
 全国平均は18.8%

2013年の第25回社会福祉士国家試験での本学新卒合格率は15.1%(受験者53名、合格者8名)でした。なお、全国平均は18.8%で、史上2番目の低さとなりました。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

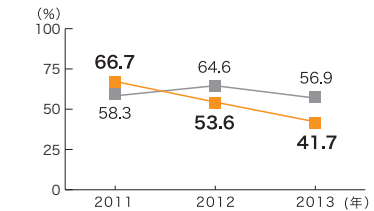


##### ( 第15回 精神保健福祉士国家試験 )

合格者の多くが  
 社会福祉士とのダブルライセンスを取得

第15回精神保健福祉士国家試験の新卒合格率は41.7%(受験者12名、合格者5名)でした。また、合格者の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを実現しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



##### ( 第15回 言語聴覚士国家試験 )

新卒合格率は94.7%  
 1期生から連続して全国平均を上回る

2013年の第15回言語聴覚士国家試験での本学新卒合格率は94.7%(受験者38名、合格者36名)で、1期生から連続して全国平均を上回っています。また、これまでの全卒業者437名のうち417名が言語聴覚士国家資格を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



##### ■登録・認定資格取得結果

資格・対象学部学科等	取得者数
介護福祉士 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科 (介護福祉コース)	11名
認定心理士 北海道医療大学 心理科学部臨床心理学科	55名
訪問介護員2級 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科	10名

※取得者数は申請要件を満たしている者の数

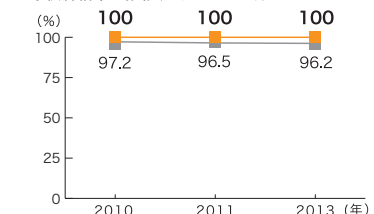
##### 歯学部附属歯科衛生士専門学校

##### ( 第22回 歯科衛生士国家試験 )

5年連続100%  
 3年制移行後も安定した合格率

2013年の歯科衛生士国家試験は、本校から第27期生29名が受験し、全員が合格して合格率100%を達成しました。開校以来、高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■本校合格率の推移(新卒のみ過去3年)



※3年制移行のため2012年の受験はありません

# 就職状況 結果報告

本学卒業生への評価の高さが、求人者の質・量に直結。  
より深い知識修得を目指し大学院へ進学する人も。

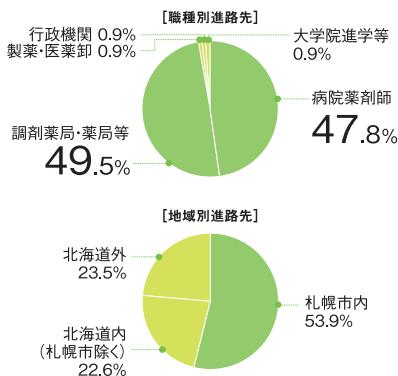
## 薬学部

2013年も5,000人を超える求人  
6年制移行後も高い就職率を維持

6年制移行後2回目の卒業生となる2013年も、全国から5,000人を超える求人が寄せられました。卒業生の多くが希望どおりの就職を果たし、総合病院を中心に病院薬剤師として、また調剤薬局の薬剤師として活躍しています。また、2013年卒業生の約20%が北海道外へ就職しています。

■2013年3月卒業生の就職先

求人数	
薬剤師	5,510人
MR・研究・開発職	107人



## 歯学部

卒業生ほぼ全員が臨床能力の向上を  
めざして臨床研修医の道へ

歯科医師国家試験合格後には臨床研修が義務化されています。2013年3月の本学の歯科医師国家試験合格者もほぼ全員が研修歯科医となり、本学歯科内科クリニック、大学病院をはじめとした全国の臨床研修施設で研修を行います。

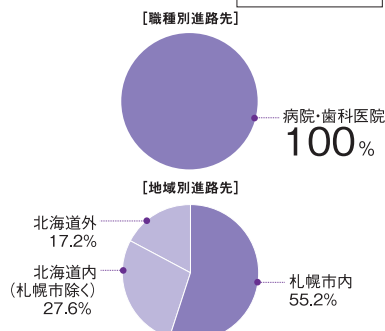
## 歯学部附属歯科衛生士専門学校

27期連続、就職希望者全員が就職

2013年の卒業生に対する求人数は486名で、就職希望者全員が就職し、開校以来27期連続で100%就職を果たしました。また本年度は卒業生全員が病院・クリニックや歯科医院に就職しましたが、障がい者施設、地域住民を対象に歯科健診や保健指導を行う保健所や市町村の保健センターなどへ就職することもできます。

■2013年3月卒業生の就職先

求人数	
歯科衛生士	486人



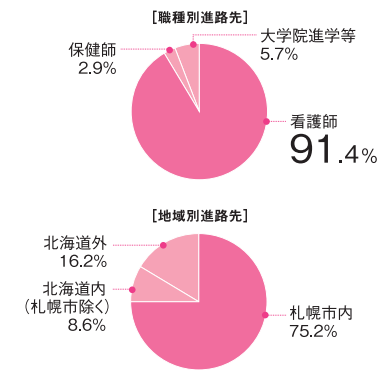
## 看護福祉学部 / 看護学科

卒業生は、札幌と首都圏を中心に  
全国の総合病院で活躍

1993年の開設以来2013年3月までに、本学看護学科からのべ1,735名の卒業生が巣立っていました。その多くが大学病院、公立病院を中心とした全国の総合病院で活躍中です。医療現場が本学卒業生へ寄せる期待の大きさは、例年の求人数の多さからもわかります。

■2013年3月卒業生の就職先

求人数	
看護師	19,720人
保健師	190人



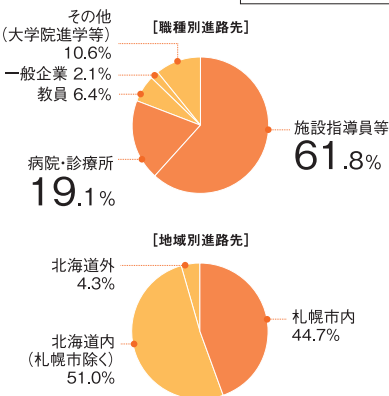
## 看護福祉学部 / 臨床福祉学科

就職者の80%が専門職  
教員の夢も3名が叶えました

2013年3月卒業生のうち進学等を除く就職者の80.8%が病院、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、老人保健施設などに福祉の専門職として就職しています。また、3名は養護学校等の教員になりました。本学科の専門職の年間求人は2,000人以上と、出身地への就職も安心です。

■2013年3月卒業生の就職先

求人数	
医療機関相談員	188人
福祉施設相談員・介護職員等	2,095人
一般事務・その他	2,442人



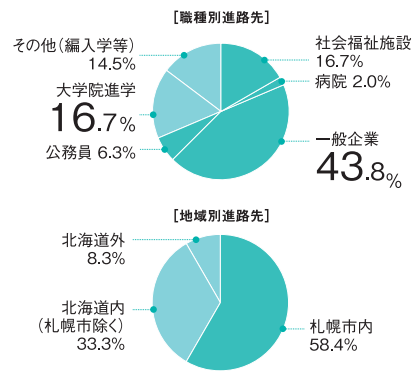
## 心理科学部 / 臨床心理学科

ビジネス界、医療・福祉、進学、  
専門性を生かす進路は多彩です

2013年3月卒業生の18.7%が医療や福祉の現場へ就職、16.7%が臨床心理士資格取得をめざして大学院へ進学しました。一方、40%以上は業種業態を問わずさまざまな企業で、また公務員として、専門性を応用する道を選んでいます。

■2013年3月卒業生の就職先

求人数	
心理職	65人
一般事務・その他	2,442人



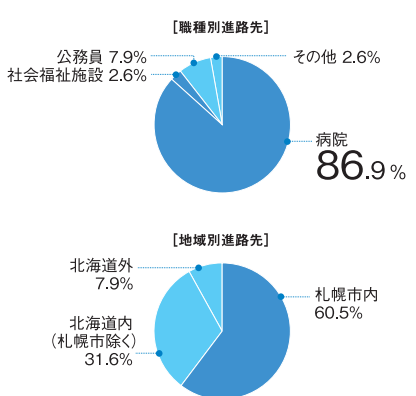
## 心理科学部 / 言語聴覚療学科

2013年卒業生の約90%が  
病院の言語聴覚士として活躍

専門の治療・訓練を必要とする言語聴覚障がい者の増加に伴って言語治療を行う医療機関や福祉施設が増えていることから、毎年本学科には多くの求人が寄せられ、就職実績は安定したものとなっています。2013年3月卒業生は就職者の約90%が病院へ就職しました。

■2013年3月卒業生の就職先

求人数	
言語聴覚士	665人



# 2013年度 入試 結果報告

## 大学の志願者総数は昨年度の1.5倍に増加。

### 全学科、前年度よりも志願総数増。

リハビリテーション科学部開設により、志願者総数は前年度より2,106名増の6,137名で、志願者総数は全学科において、増加しました。

### 編入学試験の志願総数は41名。

本学全体では41名が編入学を志願しました。うち32名が入学して、実質競争倍率は1.2倍でした。

### 専門学校志願者の約8割がAO方式入試を利用。

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しており、志願者は昨年34名から43名へと増加し、全体の約80%を占めました。

■2013年度入試結果  
北海道医療大学

歯学部附属歯科  
衛生士専門学校

	薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部		歯科衛生科
					看護学科	臨床福祉学科	臨床心理学科	言語聴覚療学科	理学療法学科	作業療法学科	
AO方式入試	志願者数	47名	14名	54名	19名	15名	15名	24名	60名	12名	43名
	受験者数	47名	14名	54名	19名	15名	24名	60名	12名	42名	42名
	合格者数	29名	14名	10名	18名	9名	15名	19名	8名	8名	42名
	入学者数	29名	13名	10名	18名	9名	15名	19名	8名	8名	41名
	実質倍率	1.6倍	1.0倍	5.4倍	1.1倍	1.7倍	1.6倍	3.2倍	1.5倍	1.0倍	1.0倍
一般推薦入試	志願者数	28名	0名	47名	0名	13名	9名	54名	14名	3名	3名
	受験者数	28名	—	47名	—	13名	9名	54名	14名	3名	3名
	合格者数	20名	—	18名	—	12名	9名	20名	10名	3名	3名
	入学者数	20名	—	18名	—	12名	9名	20名	10名	3名	3名
	実質倍率	1.4倍	—	2.6倍	—	1.1倍	1.0倍	2.7倍	1.4倍	1.0倍	1.0倍
指定校 特別推薦入試	志願者数	41名	2名	31名	21名	10名	12名	—	—	—	—
	受験者数	41名	2名	31名	21名	10名	12名	—	—	—	—
	合格者数	41名	2名	31名	21名	10名	12名	—	—	—	—
	入学者数	40名	2名	31名	20名	10名	12名	—	—	—	—
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—	—	—	—
一般前期入試 (大学)	1日目 志願者数	246名	47名	400名	162名	182名	168名	257名	268名	—	1名
	2日目 志願者数	174名	26名	380名	159名	169名	159名	207名	231名	—	—
	1日目 受験者数	244名	43名	388名	159名	179名	166名	256名	266名	—	—
	2日目 受験者数	164名	23名	371名	155名	165名	154名	202名	227名	—	—
	合格者数	121名	44名	95名	178名	115名	81名	89名	106名	—	1名
一般前期(A・B日程) (専門学校)	1日目 合格者数	64名	11名	24名	29名	20名	5名	48名	25名	—	0名
	2日目 合格者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	入学者数	64名	11名	24名	29名	20名	5名	48名	25名	—	0名
	実質倍率	3.4倍	1.5倍	8.0倍	1.8倍	3.0倍	4.0倍	5.1倍	4.7倍	—	1.0倍
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一般後期入試	志願者数	98名	79名	93名	71名	80名	67名	92名	93名	5名	5名
	受験者数	91名	72名	89名	67名	71名	62名	83名	86名	5名	5名
	合格者数	10名	69名	18名	56名	27名	11名	13名	15名	—	5名
	入学者数	8名	14名	16名	14名	7名	1名	10名	3名	—	3名
	実質倍率	9.1倍	1.0倍	4.9倍	1.2倍	2.6倍	5.6倍	6.4倍	5.7倍	—	1.0倍
センター前期A入試	志願者数	281名	130名	308名	103名	134名	107名	—	—	—	—
	受験者数	281名	130名	308名	103名	134名	107名	—	—	—	—
	合格者数	56名	115名	42名	75名	58名	47名	—	—	—	—
	入学者数	8名	12名	2名	12名	7名	9名	—	—	—	—
	実質倍率	5.0倍	1.1倍	7.3倍	1.4倍	2.3倍	2.3倍	—	—	—	—
センター前期B入試	志願者数	101名	30名	118名	71名	96名	65名	—	—	—	—
	受験者数	101名	30名	118名	71名	96名	65名	—	—	—	—
	合格者数	35名	28名	31名	67名	53名	38名	—	—	—	—
	入学者数	15名	0名	5名	14名	12名	14名	—	—	—	—
	実質倍率	2.9倍	1.1倍	3.8倍	1.1倍	1.8倍	1.7倍	—	—	—	—
センター後期入試	志願者数	43名	14名	28名	27名	27名	19名	—	—	—	—
	受験者数	43名	14名	28名	27名	27名	19名	—	—	—	—
	合格者数	10名	14名	9名	23名	15名	5名	—	—	—	—
	入学者数	2名	1名	0名	6名	3名	1名	—	—	—	—
	実質倍率	4.3倍	1.0倍	3.1倍	1.2倍	1.8倍	3.8倍	—	—	—	—
TOTAL	志願者数	1,059名	342名	1,459名	633名	726名	630名	670名	618名	52名	52名
	受験者数	1,040名	328名	1,434名	622名	710名	618名	655名	605名	51名	51名
	合格者数	322名	286名	254名	438名	299名	218名	141名	139名	51名	51名
	入学者数	186名	53名	106名	113名	80名	66名	97名	46名	47名	47名
	実質倍率	3.2倍	1.1倍	5.6倍	1.4倍	2.4倍	2.8倍	4.6倍	4.4倍	1.0倍	1.0倍

## 2013年度 新入生オリエンテーション

本学では、新入生が大学での新生活をスタートするにあたり、一にも早く環境に慣れ、将来の目標に向かって充実した学生生活を送れるように、新入生を対象とした様々なオリエンテーション・ガイダンスを実施しています。今年度は4/8(月)から4日間にわたり実施されました。

前半は学内を会場とし、後半は札幌市南区の定山溪のホテルを会場に一泊二日にわたって行われ、本学同窓会を中心に社会の第一線で働く各学部の卒業生、そして上級生や教員が一体となった楽しく充実した多くのイベントが実施されました。また、新川学長、黒澤副学長、大野理事が参

加され各学部・学校の会場で挨拶をしていただきました。

参加した学生のアンケートには「多くの友人ができて大変楽しいオリエンテーションだった。また、卒業生や上級生の話や、色々なイベント・相談コーナーなどがあり、これからの学生生活や将来像の具体的なイメージがつかめた。」との感想が多く寄せられました。

特に今年度より開設のリハビリテーション科学部においては、一期生たる自覚と規律さを存分に持ちつつも、若者らしい、学生らしい明るさと友好的な姿勢をもってオリエンテーションに



臨んでおり、ホテル関係者より「大変素晴らしい学生さんたちだ。」との声をいただきました。



## オーストラリア・モナシュ大学 語学研修レポート

去る3月4日(月)～3月23日(土)までの約3週間にわたり、薬学部1名、歯学部2名、看護学科4名、言語聴覚療法学科4名、計11名の学生と教員2名がオーストラリア・モナシュ大学の語学研修に参加しました。

研修を体験した学生からは、「自身の英語が現地で通じるのかなど、不安が入り交じる中での出発でしたが、ホームステイをしていたおかげで、ホストファミリーが積極的に話しかけてきてくれるので、気づけば自然に会話を楽し



むことができるようになっていました。本当の家族のように接してもらっていたので、帰国時は名残惜しくさびしい気持ちでいっぱいでした。」「大学では英語を勉強するだけではなく、オーストラリアの文化や歴史、医療制度についても知識を深めることができ、日本との違いに気づく良い機会となりました。休日にはメルボルンの市街でショッピングを楽しんだり、動物園に行くなど、どれも貴重な経験となりました。」「海外へ出たことがなかった私にとって、今回の語学研修は、私の大学生活の中でも大きな出来事となりました。滞在中は、言語をはじめ慣れないことも多く、挑戦の毎日でしたが、帰国後の自分は一回り成長した顔になったと両親にも言われました。参加できて本当に良かったです。」などの声が寄せられました。

### 心理学部臨床心理学科 近藤清美教授がBowlby-Ainsworth Awardを受賞

心理学部臨床心理学科の近藤清美教授がJ. BowlbyとM. Ainsworthが創設したアタッチメント(愛着)理論の研究に寄与したとしてNew York Attachment ConsortiumよりBowlby-Ainsworth Awardを受賞いたしました。

受賞した研究内容として、アタッチメント(愛着)理論の親子間の愛着において、子供が養育者を安全基地として利用し、安心感をいただく点をヒトのみならずサルにおいても研究を行い、親子間の愛着が霊長類においても見受けられる現象であることを証明し、生育環境や社会的関係が親子の愛着関係への影響を明らかにしたことです。

日本では初の受賞により欧州で創始された愛着の概念が文化を越え

て普遍的であることを示し、この受賞で、アタッチメント(愛着)理論による世界と日本をつなぐ架け橋となるでしょう。



受賞のクリスタル製の盾



### 歯学部歯学科 永易教授 ユング-シュテリング病院(ドイツ)との医療/技術交流

永易裕樹歯学部教授は、平成25年2月18日から約2か月間、フランクフルトの約120km北に位置するジーゲンという町にあるDiakonie Klinikum Ev Jung-Stilling Krankenhausの顎顔面口腔外科及び形成外科に医療交流を目的として出張し、診療に参加しました。

非常に友好的な受入れ体制により、精力的に中央手術室での手術に参加し、今後は、「臨床における外来・入院患者管理」、「手術手技の違い」に関して議論し、日独双方における発展的な面の相互理解を深める

とともに、本学における診療への還元が期待されます。また、同医療機関における効率的な人的資源の配置、病床稼働法等の診療体制、医療サービス、及び教育面においての歯学部臨床教育、卒後臨床研修のカリキュラム、教育体制等について学び、運用可能なものを見いだしていくことにより、本学の歯学部臨床教育、特に、参加型臨床教育への積極的な運用が見込まれます。

なお、本学の口腔外科とJung-Stilling Krankenhaus 顎顔面口腔外科との間で、人事交流が図れるよう基盤形成を行う予定です。

#### 【ユング-シュテリング病院】

ノルトラインヴェストファーレン州に3施設ある中核病院としての役割を果たす病床数800の大規模施設。顎顔面口腔外科は、Hell教授を中心とする3名の顎顔面口腔外科医(ダブルライセンス)と4名の歯科医師から構成されています。年間新患数は、約6000名、手術は中央手術室において1200例程度行われ、外来での全身麻酔下での手術件数も同等数あり、周囲100～200kmを診療圏とした地域医療を担っています。



外来にてHell教授(左)と永易教授(右)



中央手術室での術中写真。永易教授(左)と顎顔面口腔外科医(右)

## 北海道(医療大)に来て変わったこと

歯学部  
歯学科

教授 石井 久淑



北海道当別町での生活は、大学生時代から現在に至るまで(学生及び教員として)20年余りが過ぎました。長いようであつという間だった北海道の生活で、3つのことがそれまでの自らの人生から大きく変わったと感じています。

一つ目は、本学歯学部に入學して親元を離れた生活が始まったことです。独り暮らしは天国のような日々でした。テレビ、外出、食事など身の回りのもの全てが自由となり、とてつもない開放感にときめいたことを思い出します。それとともに、社会での



余計な雑音(?)を排除して、「歯」と向き合っていた頃の私

一個人としての自分に対する他人の評価の厳しさと自由ゆえの責任の重さを感じた苦い思い出も少なくありません。そして、いつでも誰かに見られていることを意識して、責任を持った行動や言動を心がけるようになりました。

2つ目は、気候です。本州出身の私は北海道に来るまで、雪を見たことがありませんでした。周りの人からは「寒さが厳しくて大変でしょう。」と同情の言葉をよくいただきました。しかしながら、寒さに嫌気がさして、雪がない本州に帰りたと思ったことはありませんでした。その大きな要因はスギ花粉が北海道には少ないことです。長年のスギ花粉アレルギーに悩まされていた私にとって、北海道は天国に一番近い島のような(島といえば鳥ですが)。そして、アレルギー治療における抗原除去療法の効果と重要性を身をもって認識しました。日常生活においても、余計な雑音(抗原)を排除して、物事の本質に全力で向かう努力をするようになりました。

3つ目は人です。人付き合いはどこにいってもなくなることはなく、健全な精神と肉体を養うためには不可欠なものだと思います。特に、北海道の人

口密度と人との距離は物理的及び精神的にも最もベストな環境といえるのではないのでしょうか。大都市での人為的な大渋滞では耐えがたい苛立ちを感じますが、北海道の猛吹雪による交通障害に対しては、大自然の偉大さに感服し脱帽することもしばしばです。自然は侮ることができません。幾度となく猛吹雪で遭難しかけたときに(雪山ではなく大学の行き帰りの道路にて)、自らの危険を顧みず、声をかけて車を引っ張り出してくれた人達に命を救われることも少なからず経験しました。この頃から、いい人になりたいと努力するようになったのかもしれません。

学生時代(20代ぐらい)は、卒業したら周りの先生や社会人みたいな素敵(?)大人になっているんだろうなあと将来に対して憧憬的で楽観的な見通しを抱いておりました。しかし、卒業して20年後、40代を迎えた現実の自分は今までと本質的には何も変わっていないような気がします。しかし、立場は年齢とともに変化して、将来を夢見ていた頃の自分と同年代の現在の学生さん達は、その立場での自分を当時と同じ目線でみていることに最近気づいてきました(良いことも悪いことも)。ですから、「自分」作りの集大成の場としての大学生活の役割の大きさとそれに携わる我々の責任の重さを感じずにはいられません。

## 私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は石井教授と百々講師のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

### 私の学生時代

心理科学部  
臨床心理科

講師 百々 尚美

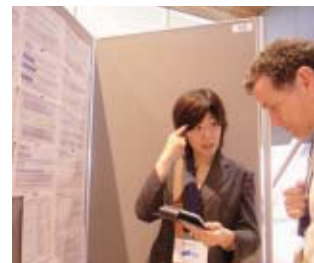


私は学生生活を2度過ごしています。1度目は高校卒業後、広島修道大学へ進学してから博士前期課程までを過ごした6年間。2度目は〇〇年後(そこは詳しくは聞かないでください)の北海道医療大学博士後期課程での3年間です。

1度目の学生生活は、生理心理学の実験に明け暮れた日々でした。毎日、脳波を測定する実験室かその隣の実験処理室で朝から晩まで過ごしていました。当時の実験室では、ようやくミニコンピューターからパーソナルコンピューターへと移行していた頃で、実験を開始するには毎回自分でプログラムを作るところから始めなくてははいけません。そのため毎晩パソコンの前でせせとプログラムを作ってはバグの検出をしていました。ですが、折角出来上がったプログラムを一夜走らせても、当時のパソコンのスペックではなかなか処理が進ま

ず、やきもきしながらパソコンの前で待機していたことを覚えています。一日中実験室の中で過ごしていたので台風が来ていることも知らず(広島では毎年最低1回は台風が上陸していました)一晩過ごし、翌朝指導の先生が心配して実験室へいらっしゃった時、「おはようございます。先生、今朝は早いですね。」とほめたことを言ったこともあります。この話は未だに、当時の先輩達の笑い話にされています。

2度目の学生生活は、大阪の大学で教員として働きながらの二足のわらじでの生活でした。毎週学生の自分と教員としての自分を飛行機の中で切り替えて大学へ通っていました。寝ていてもきちんと空港に到着できるので、飛行機での移動はさほど苦ではありませんでした。熱心な院生さんたちとのディスカッションには毎回自分自身の勉強不足を痛感していました。指導教官の坂野雄二先生のご指導と、坂野研究室の院生さんたちの温かい励ましがあったからこそ、博士後期課程の3年間を充実して過ごすことができたと思います。写真は坂野先生と院生さんたちとともにパルセロ



博士課程在籍中、パルセロの国際学会にて(中央が私)

ナの学会へ参加した時のものです。

振り返ってみると、私の1度目の学生生活はがむしゃらに突き進んでいった日々でした。これはおそらく10代後半、20代前半の若さに任せてのものだと思います。2度目の学生生活は、若くはありませんでしたが、多少なりとも社会生活を体験した中から湧き出た興味や疑問を探索したいという思いから邁進することができました。

研究についての疑問や興味は何歳になっても尽きるものではありません。もし皆さんが、「もういい歳だから」とか、「大学を出たらもう勉強なんて」と考えているのならば、私自身の体験をもとに、何歳からでも学生生活に勤しむことはできるということをお伝えしたいと思います。大学は何歳になっても探究心を揺さぶられる貴重な場所です。皆さんの御健闘を祈ります。



# OG訪問



卒後5年目の西村希美さんが勤務するのは  
手稲山の自然を望む手稲溪仁会病院。  
在学中に成人看護学実習を行った同じ病棟で  
いまは後輩の指導にも活躍する中堅の仲間入りです。

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 看護師

西村 希美 さん (看護福祉学部看護学科2009年卒業)

## この病棟で実習生から看護師へ

札幌市北西、JR手稲駅すぐそばに手稲溪仁会病院の建物が立ち並びます。救急科を含む33の診療科、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院、ドクターヘリ、ロボット支援手術など今日の医療のキーワードが揃い、道内のマスコミにも度々取り上げられる病院です。

卒後5年目を迎えた西村さんが勤務するのは「泌尿器・腎センター」(泌尿器科、腎臓内科、循環器内科の病棟)、本学在学中に成人看護学実習を行った病棟です。「臨地実習の中で最も大きな達成感を得た」という西村さんはこの場所を就職先の第一志望とし、その熱意が受け入れられ看護師として就職をかなえました。

## 患者さんの持つ力に着目

西村さんは主に、道内でいち早く導入されたロボット支援による前立腺全摘出をはじめとした周手術期ケアや、透析療法で入院された患者さんとご家族の生活支援などの看護ケアを行っています。

様々な治療を受ける患者さん一人ひとりが持っている力に着目して、その人らしい生活を患者さんと一緒に考えていくことが看護師の大切な役割です。そのためには患者さんを一人の人間とし



患者さんの元へ向かう西村さん。ポケットの中にはいつも本学の卒業記念品の電卓が入っています。

て包括的に理解することが欠かせません。西村さんは「病棟での生活の援助を通して患者さんに寄り添い、信頼関係を築くという看護の基本を大切にしています」と言います。

## 終末期の心に寄り添って

手稲溪仁会病院看護部の継続教育は、キャリア開発リーダーが明確に示され、途切れることなく高いモチベーションを持ち続けられる環境を重視した構成になっています。西村さんの「寄り添う看護」への強いこだわりも、2年目の研修で得た経験からでした。

一人の患者さんに関わった看護を、文献を用いて振り返り、ケアの評価を行う研修です。西村さんは末期腎がん患者さんを受け持ちました。緩和ケアを受ける患者さんとの2か月は、西村さんの使命感を強く刺激しました。「激しい身体面と

精神面の痛みをほとんど言葉にしない方でしたが、一生懸命患者さんの今に寄り添うことで、徐々に心の内を明かしてくれるようになりました。私にとっては命そのもの、尊厳ある最期の迎え方に真剣に向き合った時間でもありました」。身体的な痛みのコントロールは薬でできますが、心の痛みには近くにいる看護師の存在が深く関わることが、西村さんの心に刻まれました。



病棟内に2つある看護師チームのリーダーの一人として滝澤英毅医師(腎臓内科部長、透析室長)の指示を受ける西村さん。医師からの信頼も厚いことが、スムーズなコミュニケーションからわかります。

## 育てる喜びがわかるように

組織の中での役割、責任も徐々に大きくなりました。3年目の後半にはリーダー業務を行うようになり、病棟内の患者さん一人ひとりの看護についてチームメンバーと共に考えています。新人看護師や、中途採用看護師の支援も行っており、「看護の意味や手順を改めて確認する機会に」と、自分の成長にもつなげています。かつて指導した新卒看護師が今は後輩を指導している姿に、育てる喜びも味わえるようになりました。

「看護師1年目は、環境の変化にリアリティショックを受けるかもしれません。でも、それを乗り越えたところに力を尽くす価値のある世界が見えてきます。看護師とは素晴らしい職業であると日々実感しています」。

西村さんはじめ本学卒業生の存在は、後に続く者の励みと安心です。西村さん、これからも後輩の指導、よろしくお願ひします。



処置室で検査を受ける患者さんの不安を和らげるのに、西村さんの笑顔はよく効くようです。



この病棟の看護師6人が本学卒業生。取材時は5人が勤務中でした。左から谷田衣理奈さん(2011年卒)、扇田祐樹さん(2012年卒)、西村さん、宮間史保子さん(2013年卒)、鈴木捷允さん(2013年卒)。「男子卒業生も数多く活躍中ですよ」と西村さん。





# 2013年 新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて志願したのかを聞いてみました。

## 多くの学生が「医療系総合大学」に期待。

全ての学科において、医療系総合大学である点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また「学生生活」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

## 注目が集まる「国家試験成績」と「キャンパス環境」。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また「キャンパス環境」を挙げる学生も多く、臨床心理学科、言語聴覚療法学科では1番の魅力に。自然と先端の施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

## 歯科衛生士専門学校では、おおよそ8割がオープンキャンパスに参加。

施設見学や体験学習などを通して学校の雰囲気を自分の目で実際に確かめられるオープンキャンパス。例年通り、多くの学生がこの機会を利用していることがわかります。

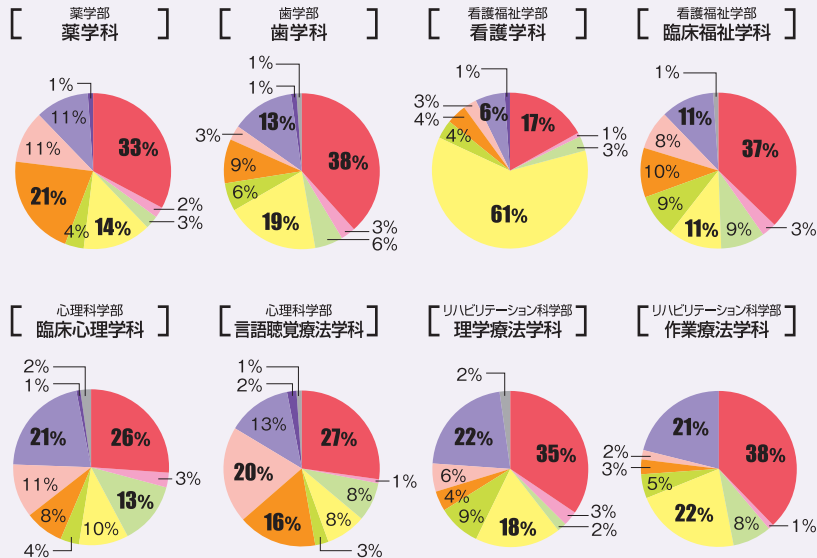
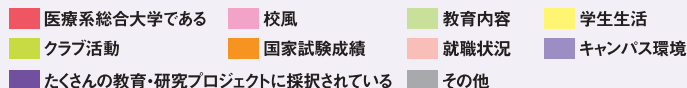
### ■有効回答者のプロフィール

	薬学部	歯学部	看護福祉学部 看護学科	看護福祉学部 臨床福祉学科	心理科学部 臨床心理学科	心理科学部 言語聴覚療法学科	リハビリテーション科学部 理学療法学科	リハビリテーション科学部 作業療法学科
回答者人数	185	57※1	113※1	115	80※1	65※1	97	46
出身地								
北海道	168	43	106	105	69	60	89	45
東北	10	2	3	6	7	4	7	1
関東・神奈川・千葉・埼玉	3	2	2	1	1	0	0	0
上記以外の関東甲信越	1	0	1	2	2	0	0	0
東海・北陸	0	4	0	0	0	0	0	0
関西	0	4	1	1	0	0	0	0
中国・四国	0	1	0	0	1	0	0	0
九州・沖縄	3	1	0	0	0	1	1	0
性別								
男	83	35	16	41	34	12	60	21
女	102	22	97	74	46	53	37	25
卒業年度								
2013年3月	146	24	92	98	70	58	83	44
2012年3月	20	12	9	9	5	3	10	2
2011年3月以前	19	21	12	8	5	4	4	0
入試形態								
AO方式入試	29	13	10	17	9	15	19	8
一般推薦入試	20	0	18	0	12	9	20	10
特別推薦入試	40	2	31	20	10	12	—	—
一般前期入試	65	11	24	29	20	5	48	25
センター前期入試	7	0	2	12	7	—	—	—
センター前期入試	14	0	4	14	12	13	—	—
一般後期入試	8	5(9※2)	16	14	7	1	10	3
センター後期入試	2	1	0	6	3	1	—	—
編入学試験	0	4	8	3	0	0	—	—

※1 編入生を含める ※2 一般後期B入試

## 北海道医療大学

### Q. 本学を志望した際、併願を考えた他大学と比べて本学のどこに魅力を感じましたか？

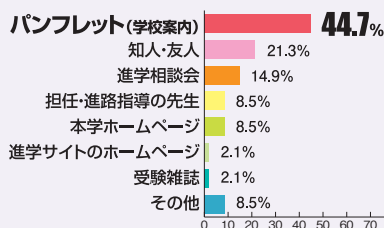


## 歯学部附属歯科衛生士専門学校

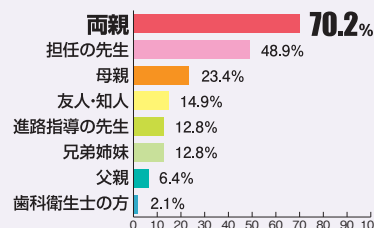
### Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？

参加した **76.6%**

### Q. 本校を何で知りましたか？(複数回答可)



### Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？(複数回答可)



## EDITOR'S NOTE

年度が変わってから、約5カ月が過ぎました。入学式など新年度の行事が一通り終わると、昨年とは違う講義、人間関係、生活リズムなど、新しい環境に直面したと思います。新たな環境に戸惑いつつも、G.W.で一息ついてエネルギー充填完了、学問に興味に、と昨年以上に充実した学生生活を送り各自の目標に邁進している人も多いと思いますが、中には、これまでとは違う環境に直面して戸惑ったまま、いつの間にか5カ月の時間が過ぎていた、という人もいます。こうなると、あれもこれもできていない、なんとかしなければ、と焦りばかりが先に立ち行動が空回りし、ますます悪循環に陥りがちです。こういうときは、落ち着いて、自分の目標から一度目をそらし、まず今の環境で踏み出せる一歩に目を向けると、道が開けるものです。J.P.モルガンの言葉ですが、「どこかにたどり着きたいと欲するならば、今いるところに留まらないことを決心しなくてはならない」。その一歩が大いなる道程の記念すべき最初の一歩にならんことを。

(K.U記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.155

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀  
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 漆原 宏次 白鳥 亜矢子  
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 長原 利明  
宮崎 隆志 國見 明美 松本 信也

発行日 ● 2013年8月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
☎(0133)22-2113  
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。  
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念  
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

